

116 コチョウゲンボウ

(ハヤブサ目)

兵庫県ランク: C

Falco columbarius

繁殖個体群:無 越冬個体群:C 通過個体群:C

環境省ランク:

種の概要

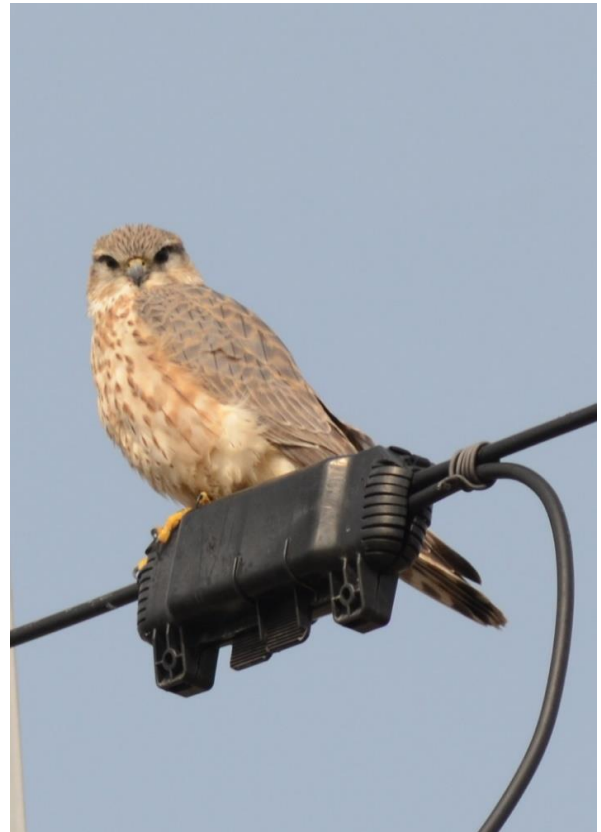
北ヨーロッパからシベリア、中国、サハリン、アラスカ、カナダなどで繁殖し、繁殖後は南方に渡り、越冬する。日本には秋に渡来し、全国各地で越冬する。平地の森林や農耕地、海岸、埋立地などに生息する。田畑や埋立地の草原で主に小鳥類やネズミ類、昆虫類を捕食する。

国内分布

北海道、南千島、礼文島、利尻島、天売島、本州、飛島、佐渡、舩倉島、隠岐、竹島、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、屋久島、伊豆諸島、トカラ列島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ★…2013年以降生息が確認されている市町

★神戸市、姫路市、明石市、★伊丹市、★豊岡市、加古川市、赤穂市、小野市、加西市、丹波市、南あわじ市、加東市、たつの市、★稲美町、香美町



写真提供：森田俊司

(性別：オス)

主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の 希少性	
個体数 激減	分布域 激減	餌の 可用性 の低下	特殊 競争 圧	特殊 捕食 圧	特殊 繁殖 環境	特殊 採餌 環境	ねぐ 特殊 ら休 息環 境・	局 地的 繁殖	希 少
		○				○			○

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

県内では主に9-翌4月に記録がある。1960年代から1970年代頃に一時的に記録されなかった時期があるが、その後は不規則ながらも県内各地で記録されている。もともと個体数は極めて少ない。

保護上の留意点

草原性の昆虫類や小鳥類など、本種の餌となる小動物が減ったことが、主な減少要因である。保護には農薬や除草剤の使用制限および河川敷の河畔林や草地の再生と動物群集の増殖が必要。